



**(社)日本品質管理学会  
医療の質・安全部会 第3回総会  
2007年10月27日(於:名古屋工業大学)**

部会長 棟近雅彦(早稲田大学)  
副部会長 永井庸次(水戸総合病院)  
副部会長 水流聡子(東京大学)

1



**活動経過：総会**

**□第1回総会**

- 2005年12月10日 於:日科技連

**□第2回総会**


- 2006年10月28日 於:筑波大学(年次大会)

**□第3回総会**

- 2007年10月27日 於:名古屋工業大学(年次大会)

Waseda Univ. Prof. M.Mumchika

2



## 活動経過：役員と部会員数


□役員

- 部会長：棟近雅彦
- 副部会長：永井庸次，水流聡子
- 幹事：池田俊也，末安いずみ，福丸典芳
- 会計担当：加藤信子，岡田優子

□部会員数

- 発足時：約100名
- 2006年8月末：約190名
- 2007年7月末：約220名
- 2008年9月末：目標300名

Waseda Univ. Prof. M.Munehika 3



## 活動経過：PCAPSシンポジウム

□ PCAPS最終成果シンポジウム


- 2007年3月10日 於：早稲田大学

1.ポスターセッション

2.H18年度研究の全体総括

- 2-1. 研究の目的と進捗
- 2-2. 研究の成果
  - 医療の質・安全を保障する臨床知識の構造化手法
  - 標準化のための科学的コンセンサスプロセスの設計とツール
  - 運用PCAPSの設計
  - 分析PCAPSの設計（PCAPSにより構造化された臨床知識と再利用の手法事例）
  - 知財管理・知財共有・知財活用：コンソーシアムの設計


Waseda Univ. Prof. M.Munehika 4



## 活動経過：PCAPSシンポジウム

3. パネルⅠ「PCAPSによる標準医療の可能性：困難・阻害因子・克服過程」
  - 標準化（臨床プロセスチャート検証調査）
  - 標準化（ユニットシート検証調査）：ユニットシート検証調査の困難・阻害因子・克服過程
  - 標準化（マスター開発）
  - 実装
  - パネル討論・フロアーからの意見
4. パネルⅡ「PCAPSによる連携医療の可能性」
  - ①健診—医療連携
  - ②地域連携医療
  - ③がん診療連携
  - ④全体討論（連携）
5. 次年度計画
6. 閉会の挨拶

Waseda Univ. Prof. M.Munehika 5




## 活動経過：医療QMSシンポジウム

「医療機関への質マネジメントシステムの導入と推進」  
 - 2007年3月11日 於：早稲田大学

- (1) 開催挨拶  
 東京大学大学院教授・飯塚悦功
- (2) 医療機関における質マネジメントシステムモデル  
 早稲田大学教授・棟近雅彦
- (3) 麻生飯塚病院におけるQMS導入の取組みと病院経営  
 麻生飯塚病院長・田中二郎
- (4) 東京衛生病院におけるQMS推進の取組みと病院経営  
 東京衛生病院長・本郷和彦
- (5) 日立製作所水戸総合病院におけるQMS推進の取組みと病院経営  
 水戸総合病院長・永井庸次
- (6) 医療機関へのQMS導入・推進における課題  
 早稲田大学・金子雅明、東京大学・塩飽哲生
- (7) パネルディスカッション「医療QMSの確立に向けて」
- (8) シンポジウムのまとめと閉会挨拶  
 東京大学大学院教授・飯塚悦功

Waseda Univ. Prof. M.Munehika 6




## 活動経過：PCAPS中間成果報告シンポジウム

- PCAPS中間成果報告シンポジウム
  - 2007年9月15、16日 於:早稲田大学
- 1日目

開会の挨拶

- 「PCAPS電子コンテンツと開発プロセス」
- PCAPS領域別発表 「PCAPS電子コンテンツの意義と課題」
- パネルディスカッション 「PCAPS電子コンテンツの意義と課題」
- ワークショップ「PCAPS連携システム」
  - 連携知識の構造化
  - 一般医療連携に関するPCAPS研究トライアル事例
    - (1)急性期病院主導型：「前立腺肥大症・がん」と「高血圧」
    - (2)超専門診療所主導型：糖尿病における栄養・運動・薬物療法の適切な管理
    - (3)拠点病院主導型：がん疼痛マネジメント
  - 討論

Waseda Univ. Prof. M.Munehika 7




## 活動経過：PCAPS中間成果報告シンポジウム

- 2日目

「医療の質向上に向けた医療ITシステム構築のあるべき姿を求めて」

- コンテンツ開発メンバー&システムユーザからの情報提供
  - PCAPS統合化システム概
  - 神鋼加古川病院の小児科病棟におけるPCAPS電子カルテ
  - 沖縄県立中部病院のPCAPS導入プロセス
  - 富山県立中央病院のモジュール型パスシステム&電子カルテ
- PCAPS-IMTコンソーシアムからの情報提供
- パネルディスカッション
  - PCAPSアドミニストレータが持つべき機能とその実現
- 閉会の挨拶

Waseda Univ. Prof. M.Munehika 8




## 活動経過：医療QMS研究会

- 研究目的
  - 医療機関におけるQMSの形態がいかにあるべきか、導入・推進をどのように行えばよいかを明らかにする。
- 参加資格
  - (社)日本品質管理学会 医療の質・安全部会の部会員(部会に入会していただければどなたでも参加できます)
- 会合実績(全体会合)
 

第1回 2007/3/15	第8回 2007/12/1
第2回 2007/4/28	第9回 2007/12/22
第3回 2007/5/19	第10回 2008/1/19
第4回 2007/6/30	第11回 2008/2/2
第5回 2007/7/21	第12回 2008/3/23
第6回 2007/9/22	
第7回 2007/10/6	

9



## 活動経過：医療QMS研究会

- WG1：ISO9001の医療分野での解釈
- アウトプット
  - ①規格要求事項7.1(製品実現の計画), 7.3(設計・開発), 7.5(製造及びサービスの提供)の対象・捉え方
  - ②規格要求事項7.5.4(顧客の所有物), 7.5.5(製品の保存)の対象・捉え方
  - ③-1規格要求事項8.2.3(プロセスの監視及び測定), 8.2.4(製品の監視及び測定), 8.3(不適合製品の管理)の対象・捉え方
  - ③-2規格要求事項8.2.3, 8.2.4を8.5.2(是正処置), 8.5.3(予防処置)とどう関連付けるか
- 活動内容
  - 医療機関に対して実施したアンケート結果から抽出された課題を中心に議論をしている

10



## 活動経過：医療QMS研究会

### □WG2：内部監査

#### □アウトプット

- プロセス監査(プロセスに沿った監査)の  
チェックリスト
  - ・対象プロセス：外来/入院診療，医療安全
- パフォーマンス監査(エラーを起点とした監査)の  
視点，および構成要素
  - ・構成要素：管理規定，計画書，チェックリスト，不適合指摘書，是正処置報告書，結果報告書，最終報告書

#### □活動内容

- 水戸病院の内部監査を事例に，問題点・有効な内部監査の視点を議論している

11



## 活動経過：医療QMS研究会

### □WG3：管理指標


#### □アウトプット

- 入院注射(輸血除く)プロセス・検体検査プロセスにおける管理指標

#### □【活動内容】

- 入院注射プロセスに関する機能展開
- 入院注射プロセスのPFC作成
- PFCに対応して管理指標の導出
- 導出した管理指標の属性(特性)項目名称を決定
- 重要な管理指標の抽出方法

12



## 活動経過

### □部会ホームページの立ち上げ

(社)日本品質管理学会  
医療の質・安全部会


部会長：棟近雅彦（早稲田大学教授）  
 副部会長：永井庸次（日立製作所水戸総合病院院長）、水瀧聡子（東京大学大学院助教授）

**医療の質・安全部会とは**  
 医療の質・安全の向上という社会的課題に対して、医学系だけではなく、工学系との共同で「医療の質マネジメント」に取り組むことの重要性が認識されてきています。より多くの方の認識を高め、課題を達成するためには、医療の質・安全を主要な研究領域とした医学系、工学系の融合の場が不可欠です。そこで、2005年9月に、(社)日本品質管理学会内に「医療の質・安全部会」が設立されました。

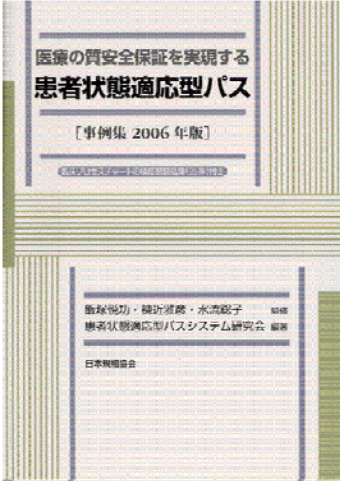
- What's New !
  - 医療の質・安全部会のウェブサイトを開発しました(2006年10月20日)。 [QR](#)
- 入会案内・部会の概要
  - 部会の概要 [\[PDF\]](#)
  - 部会の活動計画 [\[PDF\]](#)
  - 入会について
- 当部会からのお知らせ
  - 「医療のための質マネジメント基礎講座」2006年9月、10月、11月開催 [\[PDF\]](#)  
申込書 [\[Excel\]](#) → [延期になりました。](#)
- 他団体のお勧め情報
  - 特になし
- リンク
  - [医療安全と質を保障する患者状態適応型バス統合化システム開発研究](#)
- お問い合わせ
  - 医療の質・安全部会に関するお問い合わせは下記事務局までお願いいたします。  
医療の質・安全部会事務局(加藤、岡田)  
 TEL: 03-5286-3004 FAX: 03-3232-9780  
 E-mail: [secretary@tom.mgmt.waseda.ac.jp](mailto:secretary@tom.mgmt.waseda.ac.jp)

Waseda Univ. Prof. M.Munehika

13



## 活動経過



まもなく2007年版事例集発刊予定

Waseda Univ. Prof. M.Munehika

14



## 会計報告(決算)

### 収支計算書

平成18年10月1日から平成19年9月30日

医療の質・安全部会会計 (単位 円)

科目	予算額	決算額	増減	備考
<b>I. 収入の部</b>				
1. 事業収入	2,000,000	334,000	1,666,000	
(1)基礎講座収入	1,500,000	0	1,500,000	
(2)シンポジウム収入	500,000	334,000	166,000	
2. 部会費収入	360,000	368,000	△ 8,000	
(1)部会費収入	360,000	368,000	△ 8,000	
当期収入合計	2,360,000	702,000	1,658,000	
前期繰越収支差額	1,685,245	1,365,245	320,000	
収入合計	4,045,245	2,067,245	1,978,000	

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増減	備考
<b>II. 支出の部</b>				
1. 事業費	1,400,000	1,455,686	△ 55,686	
(1)基礎講座支出	800,000	0	800,000	
(2)シンポジウム支出	600,000	1,455,686	△ 855,686	
2. 管理費	540,000	470,976	△ 30976	
(1)会合費	100,000	37,912	62,088	
(2)旅費交通費	50,000	69,100	△ 19,100	
(3)通信費	80,000	30,620	49,380	
(4)印刷費	10,000			
(5)備品・消耗品費	300,000	333,344	△ 33,344	
3. 予備費	100,000	0	100,000	
(1)予備費	100,000	0	100,000	
当期支出合計	2,040,000	1,926,662	113,338	
当期収支差額	320,000	△ 1,224	△ 904,662	
次期繰越収支差額	1,365,245	140,583	1,224,662	

Waseda Univ. Prof. M.Munehika

15



## 会計報告(予算)

### 収支予算書

平成19年10月1日から平成20年9月30日

医療の質・安全部会会計 (単位 円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
<b>I. 収入の部</b>				
1. 事業収入	2,000,000	2,000,000		
(1)基礎講座収入	1,500,000	1,500,000		
(2)シンポジウム収入	500,000	500,000		
2. 部会費収入	380,000	360,000	20,000	
(2)部会費収入	380,000	360,000	20,000	
当期収入合計	2,380,000	2,360,000	20,000	
前期繰越収支差額	1,365,245	1,685,245	△ 320,000	
収入合計	3,745,245	4,045,245	△ 300,000	

(単位 円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
<b>II. 支出の部</b>				
1. 事業費	1,500,000	1,400,000	100,000	
(1)基礎講座支出	800,000	800,000		
(2)シンポジウム支出	700,000	600,000	100,000	
2. 管理費	600,000	540,000	60,000	
(1)会合費	100,000	100,000		
(2)旅費交通費	100,000	50,000	50,000	
(3)通信費	80,000	80,000		
(4)印刷費	10,000	10,000		
(5)備品・消耗品費	310,000	300,000	10,000	
3. 予備費	100,000	100,000		
(1)予備費	100,000	100,000		
当期支出合計	2,100,000	2,040,000	60,000	
当期収支差額	280,000	320,000	△ 40,000	
次期繰越収支差額	1,645,245	1,365,245	280,000	

Waseda Univ. Prof. M.Munehika

16





## 部会の意義

### □ 医学・工学の連携

- 「医学系と工学系の実務家，研究者が，共同で医療の質・安全に関する課題に取り組むことは大変有意義である」
- 製造業，一部のサービス業が中心であった適用領域の拡大

### □ 医療の質・安全を主要な研究領域とし，医学系，工学系が融合する場を提供する

- 医療の質マネジメントに関する課題は山積
- 医療者と質マネジメントの専門家が議論する
- より多くの質マネジメント推進経験者に流入してもらう
- 医療者は専門領域を越えた自由な議論を行う

Waseda Univ. Prof. M.Munehika

17



## 活動計画

### □ 研究テーマ


- PCAPS
- 医療の質マネジメントシステム

### □ シンポジウム

- 2008年3月8日(土) PCAPS成果報告
- 2008年3月9日(日) 医療の質マネジメントシステム
- 2008年9月頃 PCAPS中間成果シンポジウム
- 2009年3月頃 QMSとPCAPSの統合化
  - ・ QMS-H研究会との共催
  - ・ 病院へのQMS導入・推進方法

Waseda Univ. Prof. M.Munehika

18




## 活動計画

### □研究発表

- 2008年5月 JSQC研究発表会
  - ・ QMS研究会成果発表
  - ・ 各WG最低1本は発表予定
- 2008年10月 JSQC年次大会研究発表会
  - ・ QMS研究会成果発表
- 品質誌への投稿

Waseda Univ. Prof. M.Munehika 19



## 活動計画

### □広報と部会員増強

- 目標：第37年度部会員数300名
- 医療関係学会，雑誌，医療機関等への広報
- 医療関連学会との連携事業，共同研究
- ホームページの充実

Waseda Univ. Prof. M.Munehika 20